

# 令和2年度学校自己評価システムシート (県立岩槻高等学校)

目指す学校像	自主・自律の態度、確かな学力、国際感覚を身につけた生徒を育成し、一人一人の自己実現を支援する、地域に愛される学校
--------	--

重点目標	1 学力向上・国際感覚の育成 2 進路指導の充実 3 生徒指導の充実と人権教育の推進 4 保護者・地域との連携
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 1 月 2 6 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p><b>【現状】</b> 学年間が協調して、朝学習や授業・学校行事に取り組みしている。国際交流部・国際文化科が中心となり国際理解教育を進めている。</p> <p><b>【課題】</b> 学習の目的・目標を明確にして主体的に取り組み、国際交流や国際理解に対応できる能力を身につけた生徒を育成する。</p>	・教員の授業力向上を図り、主体的かつ深い学びにつながる学習環境の整備。グローバルな視点から諸課題の解決ができる生徒を育成する指導。	<p>①学習意欲の向上(面談・学習リサーチ結果等の活用)を図り成績を向上させる(定期考査・小テスト・模試・検定等)。</p> <p>②授業見学や公開・第三者評価を活用し授業力を向上させる。</p> <p>③情報発信を進め、制限された現状に代わる特色ある国際理解教育に関する行事を実施する。</p>	<p>①成績優良者(各学年20%以上)・成績不振者(各学年なし)。基礎学力テスト、模試等の成績(通年)。</p> <p>②教員の授業評価と生徒の学習姿勢(アンケート・見学シート等活用)(通年)</p> <p>③学校HPやリーフレットの有効活用。効果的な行事計画の立案。(通年)。</p>	<p>休校期間により授業確保・学習課題の効率化に対応した。</p> <p>①2学期末成績は、優良者20%・不振者3%である。</p> <p>②授業確保優先、授業見学の奨励が停滞した。</p> <p>③多くの主要行事が中止となる中、講演の学年ごとの分割開催やコンテスト参加、オンライン交流の工夫もあった。</p>	B	<p>○対面学習に加え、オンライン学習の充実を図るなど、指導力向上と合わせた課題がある。将来構想の策定議論をしながら、学校教育活動の重点を整理する。</p> <p>○交流がと伴う国際理解教育は、新生活スタイルに合った企画を立案する必要がある。</p>
2	<p><b>【現状】</b> キャリア教育の視線に立ち指導を実施している。将来を見据えた進路選択や地道な学習活動が不十分である。</p> <p><b>【課題】</b> 教育活動全般を通じて進路意識を向上させ、興味・関心・適性に応じた進路実現を目指す生徒を育成する。</p>	・3年間を見通した計画に基づいた指導の実施。進路実現に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する指導。	<p>①進路行事(ガイダンス・講演会等)を通じ進路意識を向上させる(学びの基礎診断ツール・模試結果分析等の活用)。</p> <p>②授業以外(進学補講・模試・各種検定・家庭学習等)の積極的な学習参加を指導する。</p> <p>③最新情報(説明会・研修会・クラウドサービス等)を活用し指導(面談等)を充実させる。</p>	<p>①進路行事の計画的実施(通年)。診断スコア・模試結果等。進路決定率(9割超)。</p> <p>②進学講習・模擬試験・各種検定等(実施回数・参加者数)。家庭学習時間(保護者アンケート分析)。</p> <p>③教員向け研修会・生徒(保護者)面談の実施、上級学校等説明会への参加(通年)。</p>	<p>コロナ禍の制限下、概ね、進路実現・学力向上のための指導が行えた。</p> <p>①進路決定率93.4%(2月末)</p> <p>②③概ね行事は実施できたが、計画の変更を余儀なくされた。参加型研修会等はリモートや中止となるものがあつた。家庭学習の取組時間が増加した(学習リサーチ)。</p>	A	<p>○目標を明確にした学力向上対策が必要であり、授業改善も不可欠となる。学びの基礎診断等を有効活用していく。</p> <p>○組織的・体系的な対応は不可欠。時間を要するが進路実現に向けた効率的な指導が必要である。ICTの有効活用を含め、新しい教育活動への整備を行う。</p>
3	<p><b>【現状】</b> 学年間が協調して指導を進め、基本的な生活習慣が確立している。校外での行動規範について指摘を受けている。</p> <p><b>【課題】</b> 登下校のマナーの向上を図る。悩みを抱える生徒への対応を充実させる。SNSに関するモラルを高めるなど、人権尊重の精神を涵養する。</p>	・社会の中の一員として責任ある意識を持たせ、多文化共生社会の実践力を育成する指導。	<p>①職員が協調して指導を実施し、基本的な生活習慣・規範意識を定着させる。</p> <p>②計画的指導(登下校・交通安全)を通じ、登下校のマナー向上と交通事故を防止する。</p> <p>③悩みを抱える生徒への教育相談・生徒指導をきめ細かく実施する。集会等を活用して人権尊重の啓発を行う。</p>	<p>①計画的・継続的指導の実施(各HR、学年・全校集会、全体整容指導等)(通年)。</p> <p>②登下校マナーに関する苦情・重大な交通事故の撲滅。(通年)。交通安全指導の計画的実施(各学期)。</p> <p>③不登校・転退学者数の減少(全校10名以下)。特別生徒指導案件の減少(特にSNSに関するトラブル)。</p>	<p>概ね計画通り実施。生徒は落ち着いて学校生活に臨んでいる</p> <p>①②高校生の自覚と母校への誇りを更に醸成する指導を進める。苦情や交通事故は、皆無とならなかった。</p> <p>③転退学者数4名(昨年度減3名)、問題行動の指導件数は前年度の1/4に減少した。</p>	A	<p>○生徒の内面や家庭環境などが起因する相談・問題が増加している。相談体制や情報交換の質を高めていくなど、見つけ難い問題の解決への工夫や研究が必要である。</p> <p>○一体感のある指導体制を更に進める必要がある。生徒指導部を中心に学年間のつながりを高めていく。</p>
4	<p><b>【現状】</b> 小高交流事業、部活動単位ごとの地域行事等への参加など、可能な範囲で地域交流を行っている。</p> <p><b>【課題】</b> 学校HPなど情報発信媒体を活用し、効果的な情報発信を進める。地域の状況を踏まえ、積極的に地域交流を進める。</p>	・情報発信、地域交流を通じて生徒、保護者、地域住民の理解を深め、学校教育活動の安全確保と生徒の学びを豊かにする指導。	<p>①学校HPの活用など、効果的な情報発信の研究を行う。</p> <p>②ボランティア活動・地域主催行事などに参加し地域住民等との交流を実施する。</p> <p>③PTA組織や地域と連携して教育活動の充実を図る。</p>	<p>①学校HPの情報発信の更新頻度、新たな情報提供手段の開発(通年)。</p> <p>②交流事業、地域行事、イベント等の参加回数と人数(通年)。</p> <p>③地域・保護者等と連携した教育活動の実施回数(通年)。</p>	<p>移動・交流が伴う多くの予定行事が中止となった。</p> <p>①学校HPは視認性の向上、感染症予防やわかりやすい情報発信の改善ができた。</p> <p>②③新たな地域貢献の形態を模索する必要がある。小高交流事業は、メッセージを送る交流となった。</p>	B	<p>○学校HPによる情報発信量が増え環境の整備・改善が進められた。ICTを活用した情報発信をさらに進める必要がある。</p> <p>○地域貢献活動を進めるためには、地域や社会にさらに意識的に目を向けて教育活動を進める必要がある。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和3年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>学力向上については、コロナ禍の中で授業確保や学習課題の効率化により評価指標の成績優良者各学年20%を実現している点は評価に値する。一方、教員の授業力向上の面においては、新しい学習指導要領に沿って改善が進められている。さらにタブレットやWiFiアクセスポイントの設置などのICT設備の充実により、新たな教育活動の創造が期待できることから、ICT活用スキルを向上させる校内研修等に期待したい。転退学者数の変化と成績不振者の割合との関係を精査してみたい。</p> <p>進路希望調査結果から学年進行に従い、将来ビジョンの明確化が伺える。生徒への各種取組による成果だと考える。コロナ禍での進路指導の困難な中、更に入試システムの変更等もある中で、進路決定率の目標達成は進路実現に向けた指導の成果と判断できる。進路指導には教員の資質向上が必要であり、ICTの活用拡大の方向性も想定されることから、これに対応できる校内体制が必要と思われる。生徒一人一人に合った指導を行うとともに、家庭学習時間の向上傾向を捉えて、更なる学力向上や自己実現に結び付けて欲しい。</p> <p>長引く感染症対策の影響で生徒の心のケアが課題となっている。僅かではあるが転退学者が増えたことについては、相関関係の検証が必要ではないか。交通事故や登校マナー等に関する苦情は、具体的な対応を示して根気よく指導を続けて欲しい。SNSに関するトラブルは大きな問題であり、一貫した具体的方策のもとに指導を継続することを望む。ネット環境が整備される中で、授業等におけるスマートフォンの活用頻度や場面が多くなる。その点も含め、指導をきめ細かく実施することが必要になるものと思われる。</p> <p>授業に代わる家庭での学習課題等の連絡、アンケート調査の実施など学校のHPを頻繁に活用するなど、コロナ禍により新たなネット活用が見えてきている。オンライン学習はもろろんであるが、メール交換による海外との交流を目標や目的を明確にしつつ、ICTを活用し映像による対話等に移行することでさらに交流が深まることが期待できる。地域貢献活動についても地域防災等も含め関係機関と連携を図り、可能な範囲内で参画するなど、地域への情報発信力を高めることを期待する。</p>	